

平成23年度第3回帯広市産業振興会議 議事録要旨

平成24年2月8日（水）18:00～20:00

帯広市役所庁舎10階第5B会議室

I. 開会・開会挨拶

II. 報告

1. 「フードバレーとかちの施策展開」と「HFC国際戦略総合特区」について

事務局より、資料1～資料3に基づき、フードバレーとかちの施策展開の概要と国際戦略総合特区について、また、フードバレーとかち推進協議会の応援企業の募集について追加資料で説明があった。

（委員）

国際戦略総合特区にはいって十勝の枠組みが大きく変わった、産業振興ビジョンに関わる事業で見直しがあるのかどうか。

（事務局）

今のところ、新しい取り組みは予定していない。産業振興ビジョン等に基づいた事業が計画されている。この後、国との協議機関の設置で新たな提案が可能、生産者など新たなニーズを持ち込み、新たな事業をつくる可能性も残されている。

（委員）

新たな取り組みがないと変わらないと思うが、まだ中身は決まってないということか

（事務局）

規制緩和をいくつも挙げているが、現段階ではまだない、可能なものから認められていく。認められれば規制緩和の項目に基づいて取り組みがすすめられていく。

（委員）

裏の要望事項一覧は、2月の特区の計画にはいつているものか。

（事務局）

一部はいつている。法律を国会通さなくて良いものはすぐに着手していく。それ以外は法律の改正や国との協議が必要なものについては4、5月に協議をしていくこととなる。

（委員）

特区、規制緩和や税制支援、振興ビジョンにもかかわる、これからも注視が必要。

2. 「とかちむら営業実績報告」について

事務局より、資料4に基づき、とかちむら営業実績報告について以下のとおり報告があった。

(事務局)

1億8,000万円を分割して5年にわたって補助をしていく、市が設置していく個店の設置にかかる償還についての設備投資まではいっていないところもあるときいている

(委員)

年間売上金額目標の根拠は？

(事務局)

狸小路などの類似施設との比較しそれを当てはめて想定している。

(委員)

客単価は上回っている、品ぞろえもあるかと思うが。

(委員)

8月までの時点で数字はでていたわけ、何か月もたっているが、そこから帯広市が手を打ったということはあるのか。

(事務局)

民営というかたちなので特別していないが、誘客をしている。経営に直接というところでは考えていない

(委員)

初めから意見あったと思うが、とかちむらは車を止めることなども含め、入りづらい。だが、競馬場の施設の関係上そうになっていると思うが、改善に関しての説明がない。一般的に言えばこのままだとやめる事業だと思う。今の説明を聞いて、そうですかといえない。

(委員)

産業振興会議としてどう支援、関わっていけばいいのか

(事務局)

ご承認いただくものではなく、作る際にご意見差し上げた経過などもあるので、情報提供ご報告をさせていただいた、意見については踏まえて今後役に立てていきたい

(委員)

アンケートや参考にした施設などとどう違うのかを検証して、今後もやっていただければと思う。

3. 帯広市HPについて

事務局から、資料5に基づき、帯広市産業振興ビジョン及び産業振興会議のホームページがフードバレーとかちのページからリンクがされた旨説明があった。

Ⅲ. 協議

1. 産業振興ビジョン事業シートと今後の議論の進め方について

事務局から、資料6について、以下のような説明があった。

・本日の主旨としては、委員に事前にお目通しいただき、評価をいただいている各事業について、不明な点や評価の過程で思った疑問点などを議論していただきたい。事務局

としては今後、この結果を平均点のようにとりまとめたものを皆様に提出したいと思っている。それをもとに絞り込んだ議論をしたいと考えている。

《1. 中小企業経営基盤の強化(1～16)》

(委員)

1-1 だが、評価がわかれるところかと思うが、どのようなやり方で行っているかを教えていただければ。

(事務局)

背景にあるのは、起業家教育を早いうちからやっていくべき、カリキュラムに組み込んでいくべきとの意見からであるが、教育委員会とも話したが、現実的には、学校教育に起業家教育を組み込んでいくのは難しい。そこで、起業家教育プログラムというのが、北海道経済産業局のメニューにあったので、まずは教育関係の方や一般の方と体験会ということで2回開催した。トレーディングゲームと呼ばれるもので、グループに分かれてお互いが交渉しながら、地域通貨的なものを増やしていくという内容。

(委員)

評価の中では、難しいというものも感じるので、1-2 のインターンシップなどは、高校でなく、中学生くらいでも行うことを考える、また手法についても考える、対象を変えたり、中身を考えたりしても。

(委員)

トレーディングゲームを体験したのだが、大人がやっても楽しいものであった、対象としては中学生や高校生としてはいるが、学校現場でやるとなると先生の相当なスキルが必要でまわせないかと思う、若いうちから創業起業のマインドを育てるというのは必要なもので、違う形で残されてはどうかと思う。

(委員)

トレーディングもあるし、北大のマネーゲームもあるが、世の中の流れを知ると、自分がどんな職業につくかを考えるのは違う、新規営業とルート営業も違う、電話アポイントとホテルのフロントも違う、どういった職業につくというのが結びつかないんじゃないか、就活には結局結びつかないんじゃないかと思う。

(事務局)

そういう意味では1-2 の十勝型インターンシップの実践、高校生が実際に企業に入り新商品開発に携わるというのが委員のおっしゃったことに対応すると思う。

(委員)

2本立てが必要なのではないか 簡単になくさず、形を変えてやっていったらよいのではないか

(委員)

1-1、1-2 統合なども考えてやっていってはどうかという結論。

(委員)

1-1 から 1-8 が重点プロジェクトとなっているが、人によっては評価が低いものもあるのでは。(評価で) 2をつけるのはわからないから、2をつけるのでは、重点プロジェクトの入れ替えもあるのでは？

(事務局)

中身の説明が十分ないまま評価いただいたこともあるが、印象だけで評価をいただいている面もあるが、再提出も考えられる。

(委員)

評価が高いものは重点プロジェクトになるというような入れ替えはあるのか

(事務局)

ビジョンで設定しているものなので、重点を変えるか変えないかということは別にして、今後、評価いただいたものを深掘りしていくかどうかについて話をしていく。

(委員)

1-15 だが建設業にむけたもの、23 年度は 0 件となっているものについてはどう考えているのか。3 にもあるがどう考えているか。

(事務局)

平成 22 年度は 4 件、それ以前もあった、平成 23 年度が 0 件となった、公共事業が厳しく新規事業に取り組むだけの余力がなかったのか、偶然なただけなのか、どちらか判断しかねるが、そういう環境はあるという理解。

《2. 産業人・担い手の育成(1～10)》

(委員)

2-5 の未実施のものなどはニーズ・需要が合わない。無理に進めるよりも別の切り口にしたほうがよいのかという判断をしたが、建設業にあえてしぼってというのはどうなのか。計画をたてても実施していないのは変えていくのがいいのではないか(全体的に)

(事務局)

ものづくり補助金 0 件の部分については、建設業も対象になるというのを出している、中小企業であればものづくりの申請を受け付けるというもの。

(委員)

2-4 図書館を利用するのは特別な理由があるのか、必要があるのか

(事務局)

図書館の設立の時にビジネス連携を打ち出しており、ビジネス支援コーナーというのを設けている。視聴覚ルームもセミナー等で活用していただいたり、商工会議所さんとも連携して実施していく。中小企業振興協議会での意見もあり施策の中に加えている。

(委員)

2-1～2-5 はここまで細分化する必要があるのか。まとめてもよいのでは

(委員)

2-8、2-9 については、中学生が体験できる機会を増やしてほしい。JC でもやったがお客さんに対して、なかなか声を掛けられないという現状もある。2-10 は高齢者をおいておくということではないが、人材育成という観点での事業と位置付けているのはどうか。

(事務局)

2-10 については、ご指摘のとおり産業人の担い手の育成というところからはずれている部分もある。言い訳がましくなるが、育成の観点ではないが、「人材」という観点からすれば、「シルバー人材センター」という拠点があり、この活用については載せておくべきであ

る。例えば事業承継において、定年後の起業などもあり掲載をしている。

2-8・2-9 などの小中学生に対しての働く大切さについては何らかの形で実施をしていきたいと思っている。高校生の就職に対する意識づけを図っていければと思っている。

(委員)

育成というところに、シルバーというのはどうか。インターンシップは畜大でも重要。(インターンを)経験している人はあまり辞めない、2-8、2-9 を一体化させて重点化していくことも重要でないか。

(委員)

海外では夏休み、冬休みに学生がインターンに行くというのが、単位や出席日数のカバーにつながるというものがある、難しいかもしれないが。

(委員)

大学ではインターンシップで単位になるものがある、卒業するのに必要な単位にはなっていないが、受け入れ企業も増えているし注目されている。中学・高校は教育委員会の方になるので難しいかもしれないが。文部科学省の予算で地域振興やボランティアに行った人には単位をあげようという取り組みを来年度からやろうという話もある。社会経験をつむのが大事というのは共通認識になってきていると思う。

(委員)

産学官連携にもつながるというのものもあるのか、そういう人づくりのシステムがあってもいいのかなということ。

(委員)

3のなかにも、ものづくりの中にも産学官連携があるが、人づくりも産学官連携でやったほうがいいというのは全くその通り。

(委員)

首都圏の大学だと取り組んでいるところがある。創業起業ということで大学と関わっているものはあるか。

(委員)

学生の中で起業するというのはいる。昔は馬喰をやっているなどという者もいた。今の学生でも会社を興したいという学生がいる。農業、生産者と近いということを生かして都市部とやりとりをするというような。そういう学生は自腹でインターンシップに行く。それは都市部で。大学のシステムでは完全にフォローはできていなく、意識があるものを伸ばす教育は必要かもしれない

(委員)

芽が見えているところだと思うし、そこから東京や札幌にいつてしまってはよくないので、多少の縛りと言うか十勝の産業と連携していくようなものに対しての特例というか、そういった取り組みもされては。

(事務局)

補足だが、気づきを与える事業として、帯広市と帯広畜産大学で行っているアグリバイオ人材育成事業があり、アントレプレナーシップや、プレゼンテーション能力だとか起業家の意識をもった人材育成をおこなっている。

(委員)

実際のところ創業についてはどうか。みんな安定志向。帯広でなら、17万・18万円の中途採用しかない。そこすら受かるのが厳しい。だから創業するという人が多い。外食や服のリサイクルであったりする。しかし生き残るのも非常に厳しいなかで、果たして大学生に創業マインドを植え付けるのはどうかと。中途の人をターゲットに的をしぼらないと、ぼやけてしまうのでは。若年者の創業支援がうまくいっているかはどうか。

(委員)

定年になってから始めるひともいる。若い人は法人にしたがるが、だまってやるひともいる、どういう層から創業しているのかは掴む必要があると思う。若い人でも基盤をもってやる方が成功する。高齢者の位置づけも。

(委員)

教育カリキュラムという話、中学生高校生で将来何になりたいという、まず選択肢がないとわからない、起業について説明するよりは、世の中にどういう職業があるのか、魅力などを子供たちに伝えていかないとイメージがわからないのではないかと、インターンシップなどを行いながら。

(委員)

1-3だが事業の到達状況で、創業セミナーやっていて20名の参加があるというが、という方が参加されているか

(事務局)

会議所が創業セミナーを座学でおこなっている。セミナーでは40名くらい来ていることもある。傾向としては女性の率が高い。経験を生かして創業をする。厳しい就職環境から創業の選択というかたもある。みなさんいずれは創業と思いながら仕事をしている。そういう傾向。

(委員)

3、4にも関係するが、どういう仕事、産業があるのか。福祉の産業、エネルギー自然エネルギー産業はない、そういう意見で方向付けしていくことが大事ではないか。

(委員)

ミスマッチで札幌や東京に行くということもある、十勝のネームバリューで売れているが人手が足りなくて大変。

(委員)

子供、老人がターゲットになっている事業もあるが、再就職、即戦力になるような方をターゲットとするような、プロジェクトが抜けているような。

(委員)

就職支援でもあるが、企業にとっては人材確保になる。そういう事業を立ち上げてみてもいかもしれない。

(委員)

ハローワークにいても紙での情報しかない、実際十勝でどういう企業がどういう職種を求めているか。ジョブジョブとかちいいがまだあまり利用されていない。コーディネートを知ってもらうことでマッチ率をあげていくことができるのでは。

(委員)

事業を集約して、情報の集約などもどうか

(委員)

札幌でIターン、Uターンフェア、名のある企業 20 社くらい出ている。帯広は 5000 社あってその中から選べと言われても困る。出ている企業も比較的求めるレベルが高いのでなかなかマッチングしない。うまいマッチングができないか、人がほしい企業、人をだせないということもあるのでは、何かできないか。

(委員)

今日は 1、2 を重点に話をした、
今日の意見を参考に選択と集中をしていただきたいと思う。

IV. その他

事務局から、資料 7 について前回の議事録案のため修正意見等ある場合は次週末までに連絡されたい旨説明があった。

V. 閉会

事務局より、次回は 3 月に開催予定の旨発言があった。